

## 大学院法学研究科〔政治学専攻 博士(後期)課程〕授業科目及び担当者

授業科目	単位	担当教員	備考	ページ
政治史特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各4	菊地 久		103・104
政治史特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各4	松戸 清裕		104・105
行政学特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各4	佐藤 克廣		106・107
政治過程論特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各4	本田 宏		107・108
公共政策論特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各4	樽見 弘紀		109・110
国際政治学特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各4	若月 秀和		111・112
地方財政論特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各4	横山 純一		112・113
自治体法特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各4	秦 博美		113・114
比較政治学特殊研究Ⅲ	4	菊地 久		115
比較政治学特殊研究Ⅰ	4	横山 純一		115
比較政治学特殊研究Ⅲ	4	横山 純一		116

■授業科目名 政治史特殊研究Ⅰ	■単位 4	■担当教員名 菊地 久
●授業の到達目標及びテーマ 日本近現代の政治史分野において、将来の博士論文作成を前提とした研究テーマの絞り込みを目標とする。		
●授業の概要 上記の目的のために重要論文を検討して研究史の展望を得ることを目指し、受講者の報告を受けて質疑応答を重ねる。		
●授業計画 第1回 I 研究テーマをめぐって (3講) i 最初のテーマ報告 第2回 ii 研究論文のリストアップ 第3回 iii 研究史料のリストアップ 第4回 II 重要論文の読み合わせとテーマの再検討 (以下、通説を中心に8講) i 論文Aの読み合わせ 第5回 i 論文Aの読み合わせ 第6回 i 論文Bの読み合わせ① 第7回 i 論文Bの読み合わせ② 第8回 i 論文Cの読み合わせ① 第9回 i 論文Cの読み合わせ② 第10回 ii テーマの再検討① 第11回 ii テーマの再検討② 第12回 III 重要論文の読み合わせとテーマの再検討 (以下、異説・少数説を中心に8講) i 論文Dの読み合わせ① 第13回 i 論文Dの読み合わせ② 第14回 i 論文Eの読み合わせ① 第15回 i 論文Eの読み合わせ② 第16回 i 論文Fの読み合わせ① 第17回 i 論文Fの読み合わせ② 第18回 ii テーマの再検討① 第19回 ii テーマの再検討② 第20回 IV 重要論文の読み合わせとテーマの再検討 (以下、テーマに近い論文を補って8講) i 論文Gの読み合わせ① 第21回 i 論文Gの読み合わせ② 第22回 i 論文Hの読み合わせ① 第23回 i 論文Hの読み合わせ② 第24回 i 論文Iの読み合わせ① 第25回 i 論文Iの読み合わせ② 第26回 ii テーマの再検討① 第27回 ii テーマの再検討② 第28回 V 再び研究テーマをめぐって (3講) i 研究テーマの再々検討 第29回 ii 研究論文の再リストアップ 第30回 iii 研究史料の再リストアップ		
●準備学習の内容 毎回要約発表の義務を負うのでこれをこなすことが準備学習となる。当然だが必要に応じて必読の論文や文献を指示し、その読了と要約を求める。		
●テキスト 特になし。		
●参考書 適宜紹介する。		
●学生に対する評価 論文・史料等の調査努力 (30%) や授業中の発言 (30%) ・レポート (30%) 等で総合的に評価する。		

■授業科目名 政治史特殊研究Ⅱ	■単位 4	■担当教員名 菊地 久
●授業の到達目標及びテーマ 研究テーマに即した一次史料の読み合わせと議論を進める。テーマは受講者と協議の上、詰めていく。		
●授業の概要 一次史料の検討を重ねることによって、引き続き研究テーマの展望を得ようとする。		
●授業計画 第1回 I 一次史料の読み合わせと質疑応答 (24講) i 史料Aを対象に①(以下、順に読み合わせを進めて6講) 第2回 i 史料Aを対象に② 第3回 i 史料Aを対象に③ 第4回 i 史料Aを対象に④ 第5回 i 史料Aを対象に⑤ 第6回 i 史料Aを対象に⑥ 第7回 ii テーマに即してその含意の検討①(2講) 第8回 ii テーマに即してその含意の検討② 第9回 iii 史料Bを対象に①(以下、順に読み合わせを進めて6講) 第10回 iii 史料Bを対象に② 第11回 iii 史料Bを対象に③ 第12回 iii 史料Bを対象に④ 第13回 iii 史料Bを対象に⑤ 第14回 iii 史料Bを対象に⑥ 第15回 iv テーマに即してその含意の検討①(2講) 第16回 iv テーマに即してその含意の検討② 第17回 v 史料Cを対象に①(以下、順に読み合わせを進めて6講) 第18回 v 史料Cを対象に② 第19回 v 史料Cを対象に③ 第20回 v 史料Cを対象に④ 第21回 v 史料Cを対象に⑤ 第22回 v 史料Cを対象に⑥ 第23回 vi テーマに即してその含意の検討①(2講) 第24回 vi テーマに即してその含意の検討② 第25回 II 論文構成と章立て・節立て、その検討・再検討 (6講) i 研究論文・研究資料の再リストアップ 第26回 ii 論文構成、その検討 第27回 iii 章立て・節立て、その検討 第28回 iv 構成・章立て・節立て、その再検討① 第29回 v 構成・章立て・節立て、その再検討② 第30回 vi 構成・章立て・節立て、その再検討③		
●準備学習の内容 毎回要約発表の義務を負うのでこれをこなすことが準備学習となる。		
●テキスト 特になし。		
●参考書 適宜紹介する。		
●学生に対する評価 論文・史料等の調査努力 (30%) や授業中の発言 (30%) ・レポート (30%) 等で総合的に評価する。		

■授業科目名 政治史特殊研究Ⅲ	■単位 4	■担当教員名 菊地 久
●授業の到達目標及びテーマ 研究テーマに即して、どのような答えを提示するか考えて、質疑応答を進める。		
●授業の概要 既成の研究論文と一次史料を踏まえた受講生の議論を受けて質疑応答を重ね、その研究の可能性を探ろうとする。		
●授業計画 第1回 I 中心的なテーマをめぐって① (主張と質疑応答、以下3講) 第2回 中心的なテーマをめぐって② 第3回 中心的なテーマをめぐって③ 第4回 II その他、細部等をめぐって① (主張と質疑応答、以下12講) 第5回 その他、細部等をめぐって② 第6回 その他、細部等をめぐって③ 第7回 その他、細部等をめぐって④ 第8回 その他、細部等をめぐって⑤ 第9回 その他、細部等をめぐって⑥ 第10回 その他、細部等をめぐって⑦ 第11回 その他、細部等をめぐって⑧ 第12回 その他、細部等をめぐって⑨ 第13回 その他、細部等をめぐって⑩ 第14回 その他、細部等をめぐって⑪ 第15回 その他、細部等をめぐって⑫ 第16回 III 論文構成と章立て・節立て、その再検討①(2講) 第17回 論文構成と章立て・節立て、その再検討② 第18回 IV 再び中心的なテーマをめぐって① (主張と質疑応答、以下3講) 第19回 再び中心的なテーマをめぐって② 第20回 再び中心的なテーマをめぐって③ 第21回 V 再び細部等をめぐって①(主張と質疑応答、以下6講) 第22回 再び細部等をめぐって② 第23回 再び細部等をめぐって③ 第24回 再び細部等をめぐって④ 第25回 再び細部等をめぐって⑤ 第26回 再び細部等をめぐって⑥ 第27回 VI 補足的な意見交換①(以下3講) 第28回 補足的な意見交換② 第29回 補足的な意見交換③ 第30回 VII まとめと反省点		
●準備学習の内容 毎回要約発表の義務を負うのでこれをこなすことが準備学習となる。		
●テキスト 特になし。		
●参考書 適宜紹介する。		
●学生に対する評価 構想や論文の進捗に応じて総合的に判断する。		

■授業科目名 政治史特殊研究Ⅰ	■単位 4	■担当教員名 松戸 清裕
●授業の到達目標及びテーマ 博士論文の大まかなテーマを見出すことを到達目標とする。 修士論文の再検討を通じて、公表する学術論文の準備と博士論文の構想に取り組むことがテーマとなる。		
●授業の概要 修士論文の再検討と公表する学術論文の主題の明確化、先行研究の再検討および関連文献の検討、研究報告などが授業の中心となる。		
●授業計画 第1回 修士論文の再検討(1) 第2回 修士論文の再検討(2) 第3回 修士論文の再検討(3) 第4回 修士論文の再検討(4) 第5回 先行研究の再検討(1) 第6回 先行研究の再検討(2) 第7回 関連文献の検討(1) 第8回 関連文献の検討(2) 第9回 関連文献の検討(3) 第10回 関連文献の検討(4) 第11回 学術論文の大筋の報告(1) 第12回 博士論文の構想の報告(1) 第13回 学術論文の大筋の報告(2) 第14回 博士論文の構想の報告(2) 第15回 関連文献の再検討(1) 第16回 関連文献の再検討(2) 第17回 関連文献の再検討(3) 第18回 学術論文の大筋の報告(3) 第19回 博士論文の構想の報告(3) 第20回 関連文献の再検討(4) 第21回 関連文献の再検討(5) 第22回 関連文献の再検討(6) 第23回 学術論文に基づく報告(1) 第24回 学術論文に基づく報告(2) 第25回 学術論文に基づく報告(3) 第26回 学術論文に基づく報告 第27回 博士論文の構想の報告(4) 第28回 博士論文の構想の報告(5) 第29回 博士論文の構想の報告(6) 第30回 学術論文の最終的な検討		
●準備学習の内容 各回の報告内容を十分準備し、資料を用意して出席すること。		
●テキスト なし。		
●参考書 なし。		
●学生に対する評価 毎回の課題への取り組みによって評価する。		

■授業科目名 政治史特殊研究Ⅱ	■単位 4	■担当教員名 松戸 清裕
<p>●授業の到達目標及びテーマ 博士論文の構想を固めていくとともに、公表する学術論文のための論点を明確化することを到達目標とする。 先行研究の検討と位置づけがテーマとなる。</p>		
<p>●授業の概要 到達目標とテーマに即した文献の検討と研究報告が授業の中心となる。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 政治史特殊研究Ⅰで取り組んだ学術論文の再検討(1) 第2回 政治史特殊研究Ⅰで取り組んだ学術論文の再検討(2) 第3回 博士論文の大まかな構想(1) 第4回 博士論文の大まかな構想(2) 第5回 博士論文の大まかな構想(3) 第6回 学術論文のための新たな論点の確認(1) 第7回 学術論文のための新たな論点の確認(2) 第8回 関連文献の検討(1) 第9回 関連文献の検討(2) 第10回 関連文献の検討(3) 第11回 関連文献の検討(4) 第12回 関連文献の検討(5) 第13回 博士論文の大まかな構想(4) 第14回 博士論文の大まかな構想(5) 第15回 博士論文の大まかな構想(6) 第16回 学術論文の構想(1) 第17回 学術論文の構想(2) 第18回 関連文献の検討(6) 第19回 関連文献の検討(7) 第20回 関連文献の検討(8) 第21回 関連文献の検討(9) 第22回 関連文献の検討(10) 第23回 博士論文の論点整理(1) 第24回 博士論文の論点整理(2) 第25回 博士論文の論点整理(3) 第26回 博士論文の論点整理(4) 第27回 博士論文の論点整理(5) 第28回 博士論文の構成の検討(1) 第29回 博士論文の構成の検討(2) 第30回 博士論文の構成の検討(3)</p>		
<p>●準備学習の内容 各回の報告内容を十分準備し、資料を用意して出席すること。</p>		
<p>●テキスト なし。</p>		
<p>●参考書 なし。</p>		
<p>●学生に対する評価 毎回の課題への取り組みによって評価する。</p>		

■授業科目名 政治史特殊研究Ⅲ	■単位 4	■担当教員名 松戸 清裕
<p>●授業の到達目標及びテーマ 学術論文の公表および博士論文の完成を到達目標とする。 解明すべき課題の確定、先行研究の位置づけ、論文の適切な構成などが主なテーマとなる。</p>		
<p>●授業の概要 到達目標とテーマに即した文献の検討および研究報告が授業の中心となる。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 政治史特殊研究Ⅱで取り組んだ学術論文の再検討(1) 第2回 政治史特殊研究Ⅱで取り組んだ学術論文の再検討(2) 第3回 博士論文の構想の再検討(1) 第4回 博士論文の構想の再検討(2) 第5回 先行研究の最終確認(1) 第6回 先行研究の最終確認(2) 第7回 先行研究の最終確認(3) 第8回 先行研究の最終確認(4) 第9回 博士論文中間報告へ向けた準備(1) 第10回 博士論文中間報告へ向けた準備(2) 第11回 博士論文中間報告へ向けた準備(3) 第12回 博士論文中間報告へ向けた準備(4) 第13回 博士論文中間報告へ向けた準備(5) 第14回 博士論文中間報告の反省(1) 第15回 博士論文中間報告の反省(2) 第16回 学術論文の構成確認(1) 第17回 学術論文の構成確認(2) 第18回 学術論文の最終確認(1) 第19回 学術論文の最終確認(2) 第20回 博士論文各章の検討(1) 第21回 博士論文各章の検討(2) 第22回 博士論文各章の検討(3) 第23回 博士論文各章の検討(4) 第24回 博士論文各章の検討(5) 第25回 博士論文各章の検討(6) 第26回 博士論文全体の最終検討(1) 第27回 博士論文全体の最終検討(2) 第28回 博士論文全体の最終検討(3) 第29回 博士論文の結論の最終検討(1) 第30回 博士論文の結論の最終検討(2)</p>		
<p>●準備学習の内容 各回の報告内容を十分準備し、資料を用意して出席すること。</p>		
<p>●テキスト なし。</p>		
<p>●参考書 なし。</p>		
<p>●学生に対する評価 事前の準備と毎回の発言により評価する(各50%)。</p>		

■授業科目名 行政学特殊研究Ⅰ	■単位 4	■担当教員名 佐藤 克廣
<p>●授業の到達目標及びテーマ 目標：行政学について研究するための知識の修得と概念の検討 テーマ：行政学の基本的概念と課題</p>		
<p>●授業の概要 行政学の基本的概念について検討し、研究の課題を発見する。参加者は、毎回、以下のスケジュールに沿った報告を行い、討論に参加する。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 「行政」とは(1)政治と行政 第2回 「行政」とは(2)組織と行政 第3回 官僚制と組織(1)ーウェーバー(1) 第4回 官僚制と組織(2)ーウェーバー(2) 第5回 官僚制と組織(3)ーファヨールとテイラー 第6回 官僚制と組織(4)ー古典的組織理論 第7回 官僚制と組織(5)ーフォレット 第8回 官僚制と組織(6)ーホーソン実験と人間関係論 第9回 官僚制と組織(7)ーバーナード 第10回 官僚制と組織(8)ーマートンほか 第11回 官僚制と組織(9)ーサイモン 第12回 政府と行政(1)ー大統領制 第13回 政府と行政(2)ー議院内閣制 第14回 日本の行政(1)ー中央府省編成のあり方 第15回 日本の行政(2)ー中央府省編成の実際 第16回 日本の行政(3)ー都道府県 第17回 日本の行政(4)ー市区町村 第18回 政治と行政(1)ー政治と政治家 第19回 政治と行政(2)ー行政と行政官 第20回 政治と行政(3)ー政治家と行政官の関係 第21回 政策と行政(1)ー公共政策のとらえ方 第22回 政策と行政(2)ー公共政策の実際 第23回 政策と行政(3)ー政府政策の構造 第24回 政策と行政(4)ー政府政策の循環 第25回 政策と行政(5)ー政策課題の設定 第26回 政策と行政(6)ー政策形成と政策立案 第27回 政策と行政(7)ー政策決定 第28回 政策と行政(8)ー政策実施 第29回 政策と行政(9)ー政策評価 第30回 公共サービス改革と行政</p>		
<p>●準備学習の内容 予習(約1.5時間)：授業当日のテーマに関連する文献を読んでおくこと。第1回で指示する行政学に関する文献(英語含む)の該当箇所を事前に学習して参加すること。 復習(約1時間)：授業で触れた内容について、授業で示した参考文献等を読んでメモを作成すること。</p>		
<p>●テキスト 特に指定しない。</p>		
<p>●参考書 講義の中で適宜指示する。</p>		
<p>●学生に対する評価 授業での報告・討論内容(80%)、及び、参加態度(20%)によって評価する。なお、各回の最後に、報告・討論についての講評を参加学生それぞれに対して行い、フィードバックする。</p>		

■授業科目名 行政学特殊研究Ⅱ	■単位 4	■担当教員名 佐藤 克廣
<p>●授業の到達目標及びテーマ 目標：行政統制と行政責任の確保について考察する テーマ：行政責任論の展開</p>		
<p>●授業の概要 民主制国家においては、行政は政治の侍女でなければならないと考えられると同時に、国民・住民のための政策立案や政策実施をしなければならないとも考えられている。 これら、場合によっては矛盾する要請の狭間で行政官はどのような行動をとるべきなのかを考察する。 参加者は、毎回、以下のスケジュールに沿った報告を行い、討論に参加する。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 行政統制の仕組み(1)ー総論(1)行政統制の意義 第2回 行政統制の仕組み(2)ー総論(2)行政統制論議 第3回 行政統制の仕組み(3)ーギルバートの類型 第4回 行政統制の仕組み(4)ー外在的公式的統制の仕組み 第5回 行政統制の仕組み(5)ー外在的非公式的統制の仕組み 第6回 行政統制の仕組み(6)ー内在的公式的統制の仕組み 第7回 行政統制の仕組み(7)ー内在的非公式的統制の仕組み 第8回 行政責任論争(1)ーフリードリッヒの問題提起の背景 第9回 行政責任論争(2)ーフリードリッヒの問題提起 第10回 行政責任論争(3)ーファイナーの反論 第11回 行政責任論争(4)ーフリードリッヒとファイナーの共通点 第12回 行政責任論争(5)ーフリードリッヒとファイナーの相違点 第13回 行政責任論争(6)ー論争の今日的意味 第14回 行政官の倫理(1)ー公務員法の構造 第15回 行政官の倫理(2)ー倫理条例の意味 第16回 行政官の倫理(3)ー消極的倫理 第17回 行政官の倫理(4)ー積極的倫理 第18回 公共政策と行政官の責任(1)ー法令遵守の意義 第19回 公共政策と行政官の責任(2)ー予算責任 第20回 公共政策と行政官の責任(3)ー作為的責任 第21回 公共政策と行政官の責任(4)ー無作為的責任 第22回 自治体職員の責任(1)ー忠誠の対象は誰か 第23回 自治体職員の責任(2)ー何に対する忠誠か 第24回 自治体職員の責任(3)ー首長と議会との関係 第25回 自治体職員の責任(4)ー中央府省の指示 第26回 自治体職員の責任(5)ー都道府県と市区町村 第27回 自治体職員の責任(6)ー住民との関係 第28回 新しい統制の仕組みと行政責任(1)ーコンプライアンスはすべて？ 第29回 新しい統制の仕組みと行政責任(2)ー国民の声をどう反映するか 第30回 行政責任のディレンマー中立とは何か</p>		
<p>●準備学習の内容 予習(約1.5時間)：講義に関連する文献をあらかじめ読んでおくとともに、各講義事項にあてはまるとされる事例等を蒐集すること。第1回で指示する行政学に関する文献(英語含む)の該当箇所を事前に学習して参加すること。 復習(約1時間)：講義で指示する関係文献を読みメモを作成すること。</p>		
<p>●テキスト 特に指定しない。</p>		
<p>●参考書 講義の中で適宜指示する。</p>		
<p>●学生に対する評価 授業での報告・討論の内容(80%)、及び、参加態度(20%)によって評価する。なお、各回の最後に、報告・討論についての講評を参加学生それぞれに対して行い、フィードバックする。</p>		

■授業科目名 行政学特殊研究Ⅲ	■単位 4	■担当教員名 佐藤 克廣
<p>●授業の到達目標及びテーマ 目標：博士論文の完成 テーマ：受講者の関心による</p>		
<p>●授業の概要 博士論文作成に向けた準備、及び、論文作成を行う。参加者は、毎回、以下のスケジュールに沿った報告を行い、討論に参加する。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 受講者の関心の所在の明確化(1) 当該テーマを選ぶ理由 第2回 受講者の関心の所在の明確化(2) 当該テーマの必要性 第3回 受講者の関心の所在の明確化(3) 論文完成可能性の検討 第4回 論文骨子の明確化(1): 前半 第5回 論文骨子の明確化(2): 後半 第6回 論文骨子の作成(1): 前半 第7回 論文骨子の作成(2): 後半 第8回 論文骨子の作成(3): 全体見直し 第9回 論文序章作成(1): 前半 第10回 論文序章作成(2): 後半 第11回 論文序章作成(3): 全体見直し 第12回 論文第1章作成(1): 前半 第13回 論文第1章作成(2): 後半 第14回 論文第1章作成(3): 全体見直し 第15回 論文第2章作成(1): 前半 第16回 論文第2章作成(2): 後半 第17回 論文第2章作成(3): 全体見直し 第18回 論文第3章作成(1): 前半 第19回 論文第3章作成(2): 後半 第20回 論文第3章作成(3): 全体見直し 第21回 論文第4章作成(1): 前半 第22回 論文第4章作成(2): 後半 第23回 論文第4章作成(3): 全体見直し 第24回 論文第5章作成(1): 前半 第25回 論文第5章作成(2): 後半 第26回 論文第5章作成(3): 全体見直し 第27回 論文全体の見直しと修正(1): 論旨の明確性 第28回 論文全体の見直しと修正(2): 表現の統一 第29回 論文全体の見直しと修正(3): 脚注の再チェック 第30回 論文最終点検</p>		
<p>●準備学習の内容 予習（約2時間）：論文執筆のためのデータや文献の蒐集と、論文作成に向けたドラフトの作成を行うこと。論文執筆過程では、論文の各部分を執筆してから講義に臨むこと。 復習（約2時間）：講義で指摘された文献の読破と、指摘された問題点の克服を行うこと。</p>		
<p>●テキスト 特に指定しない。</p>		
<p>●参考書 適宜指示する。</p>		
<p>●学生に対する評価 博士論文の仕上がりが状況（100%）によって評価する。なお、各回の最後に、報告・討論についての講評を参加学生それぞれに対して行い、フィードバックする。</p>		

■授業科目名 政治過程論特殊研究Ⅰ	■単位 4	■担当教員名 本田 宏
<p>●授業の到達目標及びテーマ 修士論文の再検討と、博士論文の研究テーマを固めることが目標である。</p>		
<p>●授業の概要 文献の読み合わせや調査状況の報告、研究計画や方法の練り直しを繰り返すことで、論文作成への準備作業を支援する。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 修士論文の大枠の再検討 第3回 修士論文の個別の再検討 第4回 テーマに関するブレインストーミング 第5回 方法論に関するブレインストーミング 第6回 分析視角に関するブレインストーミング 第7回 参考文献の調査 第8回 参考文献の検討 第9回 参考文献の再検討 第10回 先行研究の調査 第11回 先行研究の検討 第12回 先行研究の再検討 第13回 テーマの暫定的な設定 第14回 テーマの再検討 第15回 特定文献の読み合わせ 第16回 特定文献の要約 第17回 特定文献の整理 第18回 特定文献の検討 第19回 特定文献の再検討 第20回 特定文献の考察 第21回 特定文献の再考 第22回 特定文献の読み込み 第23回 分析視角の検討 第24回 分析視角の再検討 第25回 分析視角の形成 第26回 分析視角の整理 第27回 調査方法の検討 第28回 調査方法の再検討 第29回 テーマの確定 第30回 まとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 毎回の報告を簡潔なレジュメにまとめておくことが求められる。</p>		
<p>●テキスト 受講者との事前の協議によって決める。</p>		
<p>●参考書 授業の際に紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告内容による。報告内容については授業内にコメントする。</p>		

■授業科目名 政治過程論特殊研究Ⅱ	■単位 4	■担当教員名 本田 宏
<p>●授業の到達目標及びテーマ 受講生が固めた博士論文の研究テーマに関する事例調査の検討と分析視角や方法論の修正。</p>		
<p>●授業の概要 政治過程論特殊研究Ⅰに引き続いて、文献の読み合わせや調査状況の報告、研究計画・方法の練り直しを繰り返し、論文作成の準備作業を行う。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 事例の検討 第3回 事例の再検討 第4回 分析視角の再検討 第5回 研究計画書の作成 第6回 事例調査の進行状況の報告 第7回 事例調査の進行状況の整理 第8回 事例調査の考察 第9回 事例調査の再考 第10回 計画の再検討 第11回 事例の再検討 第12回 事例調査の進行状況の報告 第13回 事例調査の進行状況の整理 第14回 事例調査の考察 第15回 事例調査の再考 第16回 調査方法の検討 第17回 調査方法の再検討 第18回 事例調査の進行状況の報告 第19回 事例調査の進行状況の整理 第20回 事例調査の考察 第21回 事例調査の再考 第22回 事例調査の再整理 第23回 調査方法の再検討 第24回 調査方法の修正 第25回 事例の確定 第26回 調査方法の修正 第27回 分析視角の修正 第28回 研究計画書の完成 第29回 調査状況の総括 第30回 まとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 毎回の報告を簡潔なレジュメにまとめておくことが求められる。</p>		
<p>●テキスト 受講者との事前の協議によって決める。</p>		
<p>●参考書 授業の際に紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告内容による。授業内でフィードバックを行う。</p>		

■授業科目名 政治過程論特殊研究Ⅲ	■単位 4	■担当教員名 本田 宏
<p>●授業の到達目標及びテーマ 受講生が設定したテーマに関する博士論文の完成が目標である。</p>		
<p>●授業の概要 受講者が設定したテーマに関して、文献の調査・執筆の状況報告を繰り返しながら、論文を完成させる。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 文献・分析視角・調査方法の修正 第2回 論文序章前半作成 第3回 論文序章後半作成 第4回 章立ての作成 第5回 論文第一章第一節作成 第6回 論文第一章第二節作成 第7回 論文第一章第三節作成 第8回 論文第一章第四節作成 第9回 論文第二章第一節作成 第10回 論文第二章第二節作成 第11回 論文第二章第三節作成 第12回 論文第二章第四節作成 第13回 論文第三章第一節作成 第14回 論文第三章第二節作成 第15回 論文第三章第三節作成 第16回 論文第三章第四節作成 第17回 論文第四章第一節作成 第18回 論文第四章第二節作成 第19回 論文第四章第三節作成 第20回 論文第四章第四節作成 第21回 論文結論の作成 第22回 論文結論の修正 第23回 論文序章修正 第24回 論文各章の修正 第25回 論文各章の整合性の確保 第26回 論文各章の整合性の確認 第27回 論文各章の整合性の再確認 第28回 論文結論の再修正 第29回 論文序章の再修正 第30回 論文の最終点検・完成</p>		
<p>●準備学習の内容 毎回論文を一定のペースで書いていくことが求められる。</p>		
<p>●テキスト 特になし。</p>		
<p>●参考書 演習時に適宜紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告内容と論文（各50%）による。授業内でフィードバックを行う。</p>		

■授業科目名 公共政策論特殊研究Ⅰ	■単位 4	■担当教員名 樽見 弘紀
<p>●授業の到達目標及びテーマ            テーマ：イギリスに学ぶ公共サービスと民間非営利部門            到達目標：国外事情（イギリス）と対比的に日本を観るちからを養う。</p>		
<p>●授業の概要            日本における新しい公共サービスのかたちとしての政府—非営利組織間関係を諸外国と比較検討しながら議論したいと思いますが、ここでは先行事例としてのイギリスでの協働事例を批判的に観ることに重点を置きたいと思います。履修者と担当者間での文献研究が中心となりますが、機会を捉えてイギリス事例に詳しい他の研究者や実践者への聞き取り調査等も試みたいと思います（Skype 利用も考慮）。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（購読テキストの決定を含む）            第2回 理論枠組・上（担当者による講義）            チャリティとチャリティ委員会            第3回 理論枠組・中（担当者による講義）            「コンパクト」とコミュニティガバナンス            第4回 理論枠組・下（担当者による講義）            イギリス方式とそのインプリケーション            第5回 テキスト①『イギリス非営利セクターの挑戦』（前半）            をめぐって（議論）            第6回 テキスト①『イギリス非営利セクターの挑戦』（後半）            をめぐって（議論）            第7回 総括①（担当者による講義）            第8回 テキスト②TBA（前半）をめぐって（議論）            第9回 テキスト②TBA（後半）をめぐって（議論）            第10回 総括②（担当者による講義）            第11回 テキスト③TBA（前半）をめぐって（議論）            第12回 テキスト③TBA（後半）をめぐって（議論）            第13回 総括③（担当者による講義）            第14回 テキスト④TBA（前半）をめぐって（議論）            第15回 テキスト④TBA（後半）をめぐって（議論）            第16回 総括④（担当者による講義）            第17回 テキスト⑤TBA（前半）をめぐって（議論）            第18回 テキスト⑤TBA（後半）をめぐって（議論）            第19回 総括⑤（担当者による講義）            第20回 テキスト⑥TBA（前半）をめぐって（議論）            第21回 テキスト⑥TBA（後半）をめぐって（議論）            第22回 総括⑥（担当者による講義）            第23回 テキスト⑦TBA（前半）をめぐって（議論）            第24回 テキスト⑦TBA（後半）をめぐって（議論）            第25回 総括⑦（担当者による講義）            第26回 テキスト⑧TBA（前半）をめぐって（議論）            第27回 テキスト⑧TBA（後半）をめぐって（議論）            第28回 総括⑧（担当者による講義）            第29回 （ワークショップメソッドによる）発展研究            第30回 wrap-up</p>		
<p>●準備学習の内容            各回の授業での議論の要点については、のちほど「メモ」（A4版で1～2枚程度）にまとめ、次回の講義の冒頭で交換するものとする。また、「報告レジュメ」については、授業に先立ち、遅くとも当日の朝までに他の受講生および担当者に事前送信するものとする。</p>		
<p>●テキスト            受講者との事前の協議によって決める。たとえば、塚本一郎・柳澤敏勝・山岸秀雄編『イギリス非営利セクターの挑戦：NPO・政府の戦略的パートナーシップ』（ミネルヴァ書房）など例年8冊程度が候補となる。</p>		
<p>●参考書            受講者との事前の協議によって決める。</p>		
<p>●学生に対する評価            報告を中心としたクラス討議への貢献（50%）+最終課題（50%）</p>		

■授業科目名 公共政策論特殊研究Ⅱ	■単位 4	■担当教員名 樽見 弘紀
<p>●授業の到達目標及びテーマ            テーマ：アメリカに学ぶ公共サービスと民間非営利部門            到達目標：国外事情（アメリカ）と対比的に日本を観るちからを養う。</p>		
<p>●授業の概要            日本における新しい公共サービスのかたちとしての政府—非営利組織間関係を諸外国と比較検討しながら議論したいと思いますが、ここでは先行研究の充実ぶりが顕著なアメリカでの協働事例を批判的に観ることに重点を置きたいと思います。履修者と担当者間での文献研究が中心となりますが、機会を捉えてアメリカ事例に詳しい他の研究者や実践者への聞き取り調査等も試みたいと思います（Skype 利用も考慮）。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（購読テキストの決定を含む）            第2回 理論枠組・上（担当者による講義）            501(c)(3)法人とIRS（内国歳入庁）            第3回 理論枠組・中（担当者による講義）            米国型フィランソロビーの特質            第4回 理論枠組・下（担当者による講義）            非営利組織と政治参加            第5回 テキスト①American's Voluntary Spirit（前半）            をめぐって（議論）            第6回 テキスト①American's Voluntary Spirit（後半）            をめぐって（議論）            第7回 総括①（担当者による講義）            第8回 テキスト②TBA（前半）をめぐって（議論）            第9回 テキスト②TBA（後半）をめぐって（議論）            第10回 総括②（担当者による講義）            第11回 テキスト③TBA（前半）をめぐって（議論）            第12回 テキスト③TBA（後半）をめぐって（議論）            第13回 総括③（担当者による講義）            第14回 テキスト④TBA（前半）をめぐって（議論）            第15回 テキスト④TBA（後半）をめぐって（議論）            第16回 総括④（担当者による講義）            第17回 テキスト⑤TBA（前半）をめぐって（議論）            第18回 テキスト⑤TBA（後半）をめぐって（議論）            第19回 総括⑤（担当者による講義）            第20回 テキスト⑥TBA（前半）をめぐって（議論）            第21回 テキスト⑥TBA（後半）をめぐって（議論）            第22回 総括⑥（担当者による講義）            第23回 テキスト⑦TBA（前半）をめぐって（議論）            第24回 テキスト⑦TBA（後半）をめぐって（議論）            第25回 総括⑦（担当者による講義）            第26回 テキスト⑧TBA（前半）をめぐって（議論）            第27回 テキスト⑧TBA（後半）をめぐって（議論）            第28回 総括⑧（担当者による講義）            第29回 （ワークショップメソッドによる）発展研究            第30回 wrap-up</p>		
<p>●準備学習の内容            各回の授業での議論の要点については、のちほど「メモ」（A4版で1～2枚程度）にまとめ、次回の講義の冒頭で交換するものとする。また、「報告レジュメ」については、授業に先立ち、遅くとも当日の朝までに他の受講生および担当者に事前送信するものとする。</p>		
<p>●テキスト            受講者との事前の協議によって決める。たとえば、Brian O'Connell, "American's Voluntary Spirit," Foundation Center など例年8冊程度が候補となる。</p>		
<p>●参考書            受講者との事前の協議によって決める。</p>		
<p>●学生に対する評価            報告を中心としたクラス討議への貢献（50%）+最終課題（50%）</p>		

■授業科目名	■単位	■担当教員名
公共政策論特殊研究Ⅲ	4	樽見 弘紀
<p>●授業の到達目標及びテーマ            テーマ：フランスに学ぶ公共サービスと民間非営利部門            到達目標：国外事情（フランス）と対比的に日本を観るちからを養う。</p>		
<p>●授業の概要            日本における新しい公共サービスのかたちとしての政府—非営利組織間関係を諸外国と比較検討しながら議論したいと思いますが、ここでは「非営利協同セクター」という独特のサードセクター観をもつフランスでの協働事例を批判的に観ることに重点を置きたいと思えます。履修者と担当者間での文献研究が中心となりますが、機会を捉えてフランス事例に詳しい他の研究者や実践者への聞き取り調査等も試みたいと思えます（Skype 利用も考慮）。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（購読テキストの決定を含む）            第2回 理論枠組・上（担当者による講義）「社会的経済」とは何か            第3回 理論枠組・中（担当者による講義）            フランス語圏欧州の非営利セクター概論            第4回 理論枠組・下（担当者による講義）            非営利性（非分配制約）を超えて            第5回 テキスト①『非営利・協同セクターの理論と現実』（前半）            をめぐって（議論）            第6回 テキスト①『非営利・協同セクターの理論と現実』（後半）            をめぐって（議論）            第7回 総括①（担当者による講義）            第8回 テキスト②TBA（前半）をめぐって（議論）            第9回 テキスト②TBA（後半）をめぐって（議論）            第10回 総括②（担当者による講義）            第11回 テキスト③TBA（前半）をめぐって（議論）            第12回 テキスト③TBA（後半）をめぐって（議論）            第13回 総括③（担当者による講義）            第14回 テキスト④TBA（前半）をめぐって（議論）            第15回 テキスト④TBA（後半）をめぐって（議論）            第16回 総括④（担当者による講義）            第17回 テキスト⑤TBA（前半）をめぐって（議論）            第18回 テキスト⑤TBA（後半）をめぐって（議論）            第19回 総括⑤（担当者による講義）            第20回 テキスト⑥TBA（前半）をめぐって（議論）            第21回 テキスト⑥TBA（後半）をめぐって（議論）            第22回 総括⑥（担当者による講義）            第23回 テキスト⑦TBA（前半）をめぐって（議論）            第24回 テキスト⑦TBA（後半）をめぐって（議論）            第25回 総括⑦（担当者による講義）            第26回 テキスト⑧TBA（前半）をめぐって（議論）            第27回 テキスト⑧TBA（後半）をめぐって（議論）            第28回 総括⑧（担当者による講義）            第29回 （ワークショップメソッドによる）発展研究            第30回 wrap-up</p>		
<p>●準備学習の内容            各回の授業での議論の要点については、のちほど「メモ」（A4版で1～2枚程度）にまとめ、次回の講義の冒頭で交換するものとする。また、「報告レジュメ」については、授業に先立ち、遅くとも当日の朝までに他の受講生および担当者に事前送信するものとする。</p>		
<p>●テキスト            受講者との事前の協議によって決める。たとえば、富澤賢治・川口清史著『非営利・協同セクターの理論と現実：参加型社会システムを求めて』（日本経済評論社）など例年8冊程度が候補となる。</p>		
<p>●参考書            受講者との事前の協議によって決める。</p>		
<p>●学生に対する評価            報告を中心としたクラス討議への貢献（50%）+最終課題（50%）</p>		

■授業科目名	■単位	■担当教員名
国際政治学特殊研究Ⅰ	4	若月 秀和
<p>●授業の到達目標及びテーマ            テーマ：修士論文からの発展。            到達目標：修士論文の再検討を踏まえて、新たな研究テーマを設定したうえで、それに沿って先行研究や関連文献を読み込み、博士論文の方向性を固めていく。また、同時に修士論文をもとに学術論文発表の準備を進める。</p>		
<p>●授業の概要            到達目標に即して、文献の検討と担当教員との話し合い、研究報告が授業の中心となる。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 修士論文の再読            第2回 修士論文に関する質疑応答            第3回 修士論文の問題点抽出            第4回 修士論文の改善点抽出            第5回 新たな研究テーマの設定①（学生の関心の所在を探る）            第6回 新たな研究テーマの設定②（学生の関心の焦点を絞る）            第7回 新たな研究テーマの設定③（修士論文との関連性を整理）            第8回 新たな研究テーマの設定④（研究テーマの学術的な位置づけ・意義を検討）            第9回 新たな研究テーマの設定⑤（研究テーマの問題点を検討）            第10回 新たな研究テーマの設定⑥（研究テーマを設定）            第11回 先行研究の検討①（読み込み）            第12回 先行研究の検討②（読み込み）            第13回 先行研究の検討③（整理）            第14回 先行研究の検討④（整理）            第15回 先行研究の検討⑤（比較）            第16回 先行研究の検討⑥（比較）            第17回 博士論文の構想の報告①            第18回 学術論文の概要の報告①            第19回 関連文献の読み込み①            第20回 関連文献の読み込み②            第21回 関連文献の整理①            第22回 関連文献の整理②            第23回 関連文献の比較①            第24回 博士論文の構想の報告②            第25回 学術論文の内容の検討①            第26回 関連文献の比較②            第27回 関連文献の比較③            第28回 先行研究の中での本研究の位置づけを再検討            第29回 学術論文の内容の最終検討①            第30回 博士論文の構想の報告③</p>		
<p>●準備学習の内容            授業計画に沿って、文献要約や報告が適切にできるよう入念な準備をすること。</p>		
<p>●テキスト            特になし。</p>		
<p>●参考書            適宜紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価            文献要約や報告を総合的に評価する。その結果については授業内で個々にコメントする。</p>		

■授業科目名 国際政治学特殊研究Ⅱ	■単位 4	■担当教員名 若月 秀和
<p>●授業の到達目標及びテーマ テーマ:博士論文の大枠形成。 到達目標:前年度の授業を踏まえて、博士論文作成に向けて関連文献を読み、同論文の概要報告を通じて、その内容をより具体的に固めていく。また同時に、博士論文の方向性に付随した形の学術論文発表の準備も進める。</p>		
<p>●授業の概要 到達目標に即して、文献の検討と担当教員との話し合い、研究報告が授業の中心となる。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 前年度の反省と今年度の展望 第2回 関連文献の読み込み① 第3回 関連文献の読み込み② 第4回 関連文献の整理① 第5回 関連文献の整理② 第6回 関連文献の比較 第7回 博士論文の概要報告① 第8回 学術論文の概要の報告① 第9回 関連文献の読み込み① 第10回 関連文献の読み込み② 第11回 関連文献の整理 第12回 関連文献の比較 第13回 博士論文の概要報告② 第14回 学術論文の内容の報告① 第15回 関連文献の読み込み① 第16回 関連文献の読み込み② 第17回 関連文献の整理 第18回 関連文献の比較 第19回 博士論文の概要報告③ 第20回 学術論文の内容の最終検討① 第21回 関連文献の読み込み① 第22回 関連文献の読み込み② 第23回 関連文献の整理 第24回 関連文献の比較 第25回 博士論文の概要報告④ 第26回 博士論文に関する問題設定・先行研究との対比① 第27回 博士論文に関する問題設定・先行研究との対比② 第28回 博士論文に関する問題設定の再確認① 第29回 博士論文に関する問題設定の再確認② 第30回 博士論文の概要報告⑤</p>		
<p>●準備学習の内容 授業計画に沿って、文献要約や報告が適切にできるよう入念な準備をすること。</p>		
<p>●テキスト 特になし。</p>		
<p>●参考書 適宜紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価 文献要約や報告を総合的に評価する。その結果については授業内で個々にコメントする。</p>		

■授業科目名 国際政治学特殊研究Ⅲ	■単位 4	■担当教員名 若月 秀和
<p>●授業の到達目標及びテーマ テーマ:博士論文の完成に向けて。 到達目標:受験生が決定したテーマに関する博士論文の完成を目標とする。</p>		
<p>●授業の概要 前年度までに作成した博士論文の概要を出発点として、論文の問題設定に即しているか、あるいは章と章のつながりを確認しながら、執筆作業を進めていく。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 序章の内容に関する質疑 第3回 序章の内容の確定 第4回 第1章の内容に関する検討 第5回 第1章の内容に関する質疑 第6回 第1章の内容に関する再検討 第7回 第1章の内容に関する再質疑 第8回 第1章の内容の確定 第9回 第2章の内容に関する検討 第10回 第2章の内容に関する質疑 第11回 第2章の内容に関する再検討 第12回 第2章の内容に関する再質疑 第13回 第2章の内容の確定 第14回 第3章の内容に関する検討 第15回 第3章の内容に関する質疑 第16回 第3章の内容に関する再検討 第17回 第3章の内容に関する再質疑 第18回 第3章の内容の確定 第19回 第4章の内容に関する検討 第20回 第4章の内容に関する質疑 第21回 第4章の内容に関する再検討 第22回 第4章の内容に関する再質疑 第23回 第4章の内容の確定 第24回 第5章の内容に関する検討 第25回 第5章の内容に関する質疑 第26回 第5章の内容に関する再検討 第27回 第5章の内容に関する再質疑 第28回 第5章の内容の確定 第29回 最終章の内容の検討 第30回 最終章の内容の確定</p>		
<p>●準備学習の内容 一定のペース配分に基づいて、決められた範囲まで執筆作業を進める。</p>		
<p>●テキスト 特になし。</p>		
<p>●参考書 適宜紹介する。</p>		
<p>●学生に対する評価 報告内容(20%)及び論文(80%)による。その内容・結果については授業内で個々にコメントする。</p>		

■授業科目名 地方財政論特殊研究Ⅰ	■単位 4	■担当教員名 横山 純一
<p>●授業の到達目標及びテーマ 日本とフィンランドの地方財政・高齢者福祉に関する研究がテーマで受講生が日本ならびにフィンランドの地方財政・高齢者福祉について理解を深めることを到達目標とする。</p>		
<p>●授業の概要 日本とフィンランドの地方財政や高齢者福祉に関する文献について読み進める。受講生には毎回レポート報告を義務づける。講義形式も取り入れながら授業を進める。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 修士論文の再考(1)－就学援助制度のしくみ 第3回 修士論文の再考(2)－就学援助の認定基準・支給額 第4回 修士論文の再考(3)－子どもの貧困の国際比較 第5回 修士論文の再考(4)－就学援助と生活保護 第6回 日本の地方財政文献の熟読(1)－地方財政史 第7回 日本の地方財政文献の熟読(2)－国と地方の財政関係について 第8回 日本の地方財政文献の熟読(3)－国庫支出金、地方交付税 第9回 日本の地方財政文献の熟読(4)－地方税、地方債 第10回 日本の高齢者福祉関係文献の熟読(1)－介護保険財政 第11回 日本の高齢者福祉関係文献の熟読(2)－要介護認定とケアプラン 第12回 日本の高齢者福祉関係文献の熟読(3)－在宅福祉と施設福祉 第13回 日本の高齢者福祉関係文献の熟読(4)－介護職員の待遇問題 第14回 フィンランドの地方財政文献の熟読(1)－国と地方の財政関係 第15回 フィンランドの地方財政文献の熟読(2)－国庫支出金(1980年代、1990年代) 第16回 フィンランドの地方財政文献の熟読(3)－現在の国庫支出金 第17回 フィンランドの地方財政文献の熟読(4)－地方所得税 第18回 フィンランドの地方財政文献の熟読(5)－地方財政の現状 第19回 フィンランドの地方財政文献の熟読(6)－国財政の現状 第20回 フィンランドの地方財政文献の熟読(7)－自治体連合制度 第21回 フィンランドの高齢者福祉関係の文献の熟読(1)－高齢者福祉財政 第22回 フィンランドの高齢者福祉関係の文献の熟読(2)－在宅福祉サービス(訪問介護) 第23回 フィンランドの高齢者福祉関係の文献の熟読(3)－施設福祉サービス 第24回 フィンランドの高齢者福祉関係の文献の熟読(4)－訪問介護サービス 第25回 フィンランドの高齢者福祉関係の文献の熟読(5)－福祉の民営化・民間委託化 第26回 フィンランドの高齢者福祉関係の文献の熟読(6)自治体連合と高齢者福祉 第27回 フィンランドの高齢者福祉関係の文献の熟読(7)医療(自治体病院) 第28回 日本のまとめ 第29回 フィンランドのまとめ 第30回 全体のまとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 授業前には指定する文献を熟読しておくこと。</p>		
<p>●テキスト 横山純一『地方自治体と高齢者福祉・教育福祉の政策課題－日本とフィンランド』、同文館出版、2012年3月。</p>		
<p>●参考書 なし。</p>		
<p>●学生に対する評価 レポート報告で100%評価する。</p>		

■授業科目名 地方財政論特殊研究Ⅱ	■単位 4	■担当教員名 横山 純一
<p>●授業の到達目標及びテーマ テーマは、スウェーデンの地方財政と高齢者福祉について。受講生がスウェーデンの地方財政と高齢者福祉についての理解を深めることが到達目標である。</p>		
<p>●授業の概要 スウェーデンの地方財政と高齢者福祉の文献を熟読する。毎回、受講生が文献についてのレポート報告する。時には講義形式も取り入れながら授業する。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 スウェーデンの地方財政に関する文献の熟読(1)国と地方の財政関係 第3回 スウェーデンの地方財政に関する文献の熟読(2)国庫支出金 第4回 スウェーデンの地方財政に関する文献の熟読(3)地方所得税 第5回 スウェーデンの地方財政に関する文献の熟読(4)地方財政の現状 第6回 スウェーデンの地方財政に関する文献の熟読(5)国財政の現状 第7回 スウェーデンの地方財政に関する文献の熟読(6)所得税、法人税 第8回 スウェーデンの地方財政に関する文献の熟読(7)国民負担率の推移 第9回 スウェーデンの高齢者福祉に関する文献の熟読(1)高齢者福祉財政 第10回 スウェーデンの高齢者福祉に関する文献の熟読(2)在宅福祉(訪問介護) 第11回 スウェーデンの高齢者福祉に関する文献の熟読(3)在宅福祉(通所介護) 第12回 スウェーデンの高齢者福祉に関する文献の熟読(4)施設福祉(老人ホーム) 第13回 スウェーデンの高齢者福祉に関する文献の熟読(5)施設福祉(高齢者サービス付き住宅) 第14回 スウェーデンの高齢者福祉に関する文献の熟読(6)訪問看護サービス 第15回 スウェーデンの高齢者福祉に関する文献の熟読(7)福祉の民営化・民間委託 第16回 スウェーデンの高齢者福祉に関する文献の熟読(8)自治体病院 第17回 スウェーデンの高齢者福祉に関する文献の熟読(9)サービスの質保障の自治体のとり組み 第18回 日本、フィンランド、スウェーデンの地方財政の比較研究(1)国と地方の財政関係の比較 第19回 日本、フィンランド、スウェーデンの地方財政の比較研究(2)地方税の比較 第20回 日本、フィンランド、スウェーデンの地方財政の比較研究(3)国庫支出金の比較 第21回 日本、フィンランド、スウェーデンの高齢者福祉の比較研究(1)高齢者福祉サービスの比較 第22回 日本、フィンランド、スウェーデンの高齢者福祉の比較研究(2)在宅福祉サービスの比較 第23回 日本、フィンランド、スウェーデンの高齢者福祉の比較研究(3)施設福祉サービスの比較 第24回 日本、フィンランド、スウェーデンの高齢者福祉の比較研究(4)医療サービスの比較 第25回 博士論文の文献調査と収集(1)日本の地方財政 第26回 博士論文の文献調査と収集(2)日本の就学援助 第27回 博士論文の文献調査と収集(3)スウェーデンの教育福祉 第28回 博士論文の文献調査と収集(4)フィンランドの教育福祉 第29回 博士論文の文献調査と収集(5)日本の教育福祉 第30回 まとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 授業前には指定する文献を熟読しておくこと。</p>		
<p>●テキスト 受講生と相談して決める。</p>		
<p>●参考書 なし。</p>		
<p>●学生に対する評価 レポート報告で100%評価する。</p>		

■授業科目名 地方財政論特殊研究Ⅲ	■単位 4	■担当教員名 横山 純一
<p>●授業の到達目標及びテーマ 受講生の博士論文が仕上がるように指導することが到達目標。受講生と相談して博士論文のテーマを決める。</p>		
<p>●授業の概要 博士論文への指導が中心となる。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 論文指導(1)国財政 (受講生と相談しておおよその博士論文のテーマを決める) 第3回 論文指導(2)国税 第4回 論文指導(3)国庫支出金 第5回 論文指導(4)地方交付税 第6回 論文指導(5)国歳出 (受講生と相談しておおよその博士論文の論文構成を決める) 第7回 論文指導(6)国教育費の分析 第8回 論文指導(7)地方財政 第9回 論文指導(8)地方税 第10回 論文指導(9)地方歳出 第11回 論文指導(10)地方教育費の分析 第12回 論文指導(11)就学援助の仕組み 第13回 論文指導(12)2005年の就学援助国庫支出金の廃止 (受講生と相談して博士論文のテーマの主部を確定する) 第14回 論文指導(13)2005年の一般財源化の仕組み 第15回 論文指導(14)2005年の一般財源化が与えた自治体への影響 第16回 論文指導(15)認定基準の変化と2005年の一般財源化 第17回 論文指導(16)支給額の変化と2005年の一般財源化 第18回 論文指導(17)2013年の生活援助基準の引き下げ (受講生と相談して博士論文の論文構成を確定する) 第19回 論文指導(18)2013年の生活援助基準の引き下げが与えた就学援助への影響 第20回 論文指導(19)生活援助基準の引き下げと認定基準を引き下げた自治体の分析 第21回 論文指導(20)認定基準を引き上げた自治体の分析 第22回 論文指導(21)子どもの貧困の統計上の推移 (受講生と相談してテーマの細部を確定する) 第23回 論文指導(22)子どもの貧困の国際比較 第24回 論文指導(23)教育財政の国際比較 第25回 論文指導(24)スウェーデンの教育費 第26回 論文指導(25)フィンランドの教育費 第27回 論文指導(26)福祉と教育の関係(日本) 第28回 論文指導(27)福祉と教育の関係(スウェーデン) 第29回 論文指導(28)福祉と教育の関係(フィンランド) 第30回 論文指導(29)全体的なまとめ</p>		
<p>●準備学習の内容 授業前には指定する文献を熟読しておくこと。</p>		
<p>●テキスト 受講生と相談して決める。</p>		
<p>●参考書 なし。</p>		
<p>●学生に対する評価 レポート報告で100%評価する。</p>		

■授業科目名 自治体法特殊研究Ⅰ	■単位 4	■担当教員名 秦 博美
<p>●授業の到達目標及びテーマ 地方自治・地方分権の諸論点について、主として法的観点から考察を加えることをテーマとする。 上記諸論点について、基本原理を理解することを目標とする。</p>		
<p>●授業の概要 定評あるテキストを用い、毎回の授業計画に沿って、参加者による報告を求める。その上で、質疑・討論を行う。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 総合行政と全権限性(1部1章)(1)報告 第3回 総合行政と全権限性(2)質疑・討論 第4回 総合行政と全権限性(3)総括 第5回 戦前期府県の性格と分権構想・補論(1部2章)(1)報告 第6回 戦前期府県の性格と分権構想・補論(2)質疑・討論 第7回 戦前期府県の性格と分権構想・補論(3)総括 第8回 憲法と地方自治一分権と自己決定の位置付け(2部1章)(1)報告 第9回 憲法と地方自治一分権と自己決定の位置付け(2)質疑・討論、総括 第10回 新たな地方分権・自治の法(2部2章)(1)報告 第11回 新たな地方分権・自治の法(2)質疑・討論 第12回 新たな地方分権・自治の法(3)総括 第13回 自治体の存在形態と憲法(2部3章)(1)報告 第14回 自治体の存在形態と憲法(2)質疑・討論、総括 第15回 地方自治の手続的保障(2部4章)(1)報告 第16回 地方自治の手続的保障(2)質疑・討論、総括 第17回 国際化と地方自治の法システム・補論(2部5章)(1)報告 第18回 国際化と地方自治の法システム・補論(2)質疑・討論 第19回 国際化と地方自治の法システム・補論(3)総括 第20回 条例-地方自治の基礎概念として(3部1章)報告、質疑・討論、総括 第21回 「自治体立法」の臨界論理-法治主義・権力分立・地方自治(3部2章)(1)報告 第22回 「自治体立法」の臨界論理-法治主義・権力分立・地方自治(2)質疑・討論 第23回 「自治体立法」の臨界論理-法治主義・権力分立・地方自治(3)総括 第24回 国の法令と自治行政(3部3章)(1)報告 第25回 国の法令と自治行政(2)質疑・討論、総括 第26回 国法の規律と地域性-ドイツ市町村と電気通信事業の関係から(3部4章)(1)報告 第27回 国法の規律と地域性-ドイツ市町村と電気通信事業の関係から(2)質疑・討論、総括 第28回 第2次分権改革へ向けての条例論の課題と展望(3部5章)(1)報告 第29回 第2次分権改革へ向けての条例論の課題と展望(2)質疑・討論 第30回 第2次分権改革へ向けての条例論の課題と展望(3)総括</p>		
<p>●準備学習の内容 1 毎回のテーマについて、テキストの熟読と関係する文献の閲読をし、口頭報告用の報告書を作成すること。 2 報告書は、報告の4日前までに提出すること。</p>		
<p>●テキスト 斎藤誠『現代地方自治の法的基層』(有斐閣、2012年)</p>		
<p>●参考書 適宜、指示する。</p>		
<p>●学生に対する評価 授業への参加態度(出席状況など)で30%、報告・質疑・討論の内容(完成度など)で70%の合計で評価する。報告・質疑・討論内容については、授業内で個々にコメントする。</p>		

■授業科目名 自治体法特殊研究Ⅱ	■単位 4	■担当教員名 秦 博美
<p>●授業の到達目標及びテーマ 地方自治・地方分権の諸論点について、主として法的観点から考察を加えることをテーマとする。 上記諸論点について、基本原理を理解することを目標とする。</p>		
<p>●授業の概要 定評あるテキストを用い、毎回の授業計画に沿って、参加者による報告を求める。その上で、質疑・討論を行う。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 条例制定権の限界（3部6章）(1)報告 第3回 条例制定権の限界(2)質疑・討論、総括 第4回 法律規定条例の可能性と限界（3部7章）(1)報告 第5回 法律規定条例の可能性と限界(2)質疑・討論、総括 第6回 第2次分権改革の位置付けと課題－義務付けの見直しを中心に（3部8章）(1)報告 第7回 第2次分権改革の位置付けと課題－義務付けの見直しを中心に(2)質疑・討論、総括 第8回 自治体立法の将来－義務付けの見直しの内外・国際条約と条例（3部9章）(1)報告 第9回 自治体立法の将来－義務付けの見直しの内外・国際条約と条例(2)質疑・討論、総括 第10回 義務付け・枠付け見直しの展望と課題（3部10章）(1)報告 第11回 義務付け・枠付け見直しの展望と課題(2)質疑・討論、総括 第12回 自治基本条例の法的考察（3部11章）(1)報告 第13回 自治基本条例の法的考察(2)質疑・討論、総括 第14回 条例制定の法的視点（補論） 第15回 自治体の法政策における実効性確保（4部1章）(1)報告 第16回 自治体の法政策における実効性確保(2)質疑・討論、総括 第17回 地方分権と環境法のあり方－アフターの役割分担と協働（4部2章）(1)報告 第18回 地方分権と環境法のあり方－アフターの役割分担と協働(2)質疑・討論、総括 第19回 地方分権と地方公共団体の「体制整備」（4部3章）(1)報告 第20回 地方分権と地方公共団体の「体制整備」(2)質疑・討論、総括 第21回 市町村合併と広域連携（補節1） 第22回 自己制御システムにおける議会・監査制度（補節2） 第23回 住民訴訟における議会の請求権放棄（補節3）(1)報告 第24回 住民訴訟における議会の請求権放棄(2)質疑・討論、総括 第25回 事務の共同処理に関する考察－法的観点から（4部4章）(1)報告 第26回 事務の共同処理に関する考察－法的観点から(2)質疑・討論、総括 第27回 地域協働と行政法（4部5章）(1)報告 第28回 地域協働と行政法(2)質疑・討論、総括 第29回 近隣自治制度化の法的論点（補節1） 第30回 地域自治区の具体設計（補節2）・これからの地方自治について</p>		
<p>●準備学習の内容 1 毎回のテーマについて、テキストの熟読と関係する文献の閲読をし、口頭報告用の報告書を作成すること。 2 報告書は、報告の4日前までに提出すること。</p>		
<p>●テキスト 斎藤誠『現代地方自治の法的基層』（有斐閣、2012年）</p>		
<p>●参考書 適宜、指示する。</p>		
<p>●学生に対する評価 授業への参加態度（出席状況など）で30%、報告・質疑・討論の内容（完成度など）で70%の合計で評価する。報告・質疑・討論内容については、授業内で個々にコメントする。</p>		

■授業科目名 自治体法特殊研究Ⅲ	■単位 4	■担当教員名 秦 博美
<p>●授業の到達目標及びテーマ 地方自治・地方分権に関する諸論点の中から、特定のテーマを選定し、そのテーマに関する博士論文の完成が目標である。</p>		
<p>●授業の概要 受講者が選定したテーマに関して、先行研究及び判例の検討とそれに対する研究報告が授業の中心となる。 授業計画は、「序論」「第1章」「第2章」「第3章」「結論」という論文構成を前提とするものであり、受講者の希望により、臨機応変に変更もあり得る。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 受講者の関心の所在の明確化 第2回 テーマの選定（総論） 第3回 テーマの選定（各論） 第4回 テーマに関する基本文献 第5回 テーマに関する判例 第6回 論文の全体構成（総論） 第7回 論文の全体構成（各論） 第8回 「序論」に関する報告・質疑 第9回 「序論」の再報告・質疑 第10回 「序論」の文章化 第11回 「序論」と「第1章」の関連性に関する報告・質疑 第12回 「第1章」に関する報告・質疑 第13回 「第1章」の再報告・質疑 第14回 「第1章」の文章化 第15回 「第1章」と「第2章」の関連性に関する報告・質疑 第16回 「第2章」に関する報告・質疑 第17回 「第2章」の再報告・質疑 第18回 「第2章」の文章化 第19回 「第2章」と「第3章」の関連性に関する報告・質疑 第20回 「第3章」に関する報告・質疑 第21回 「第3章」の再報告・質疑 第22回 「第3章」の文章化 第23回 「第3章」と「結論」の関連性に関する報告・質疑 第24回 「結論」に関する報告・質疑 第25回 「結論」の再報告・質疑 第26回 「結論」の文章化 第27回 論文内容の検討（総論） 第28回 論文内容の検討（各論） 第29回 論文内容の検討（表現方法、用字・用語） 第30回 論文の最終チェック</p>		
<p>●準備学習の内容 基本的に、毎回、報告用のレジュメを作成し、1週間前に提出すること。</p>		
<p>●テキスト 特になし。</p>		
<p>●参考書 特になし。</p>		
<p>●学生に対する評価 授業への参加態度（出席状況など）で30%、博士論文の完成度で70%の合計で評価する。論文内容については、授業内で個々にコメントする。</p>		

■授業科目名 比較政治学特殊研究Ⅲ	■単位 4	■担当教員名 菊地 久
<p>●授業の到達目標及びテーマ 博士論文のテーマ設定を受けて、その作成を指導する。今年度は、「近世アイヌにおける政治社会の形成」がテーマである。</p>		
<p>●授業の概要 さしあたりは、上記テーマでの論文構成を吟味し、分析の視点と個別の問題点について意見交換を重ねる。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 論文構成の吟味(1) 第2回 論文構成の吟味(2) 第3回 論文構成の吟味(3) 第4回 分析の視点をめぐって(1) 第5回 分析の視点をめぐって(2) 第6回 分析の視点をめぐって(3) 第7回 シャクシャイン以前の論点をめぐって(1) 第8回 シャクシャイン以前の論点をめぐって(2) 第9回 シャクシャイン以前の論点をめぐって(3) 第10回 シャクシャイン以前の論点をめぐって(4) 第11回 シャクシャイン以前の論点をめぐって(5) 第12回 シャクシャインの乱、その論点をめぐって(1) 第13回 シャクシャインの乱、その論点をめぐって(2) 第14回 シャクシャインの乱、その論点をめぐって(3) 第15回 シャクシャインの乱、その論点をめぐって(4) 第16回 シャクシャインの乱、その論点をめぐって(5) 第17回 クナシリメナシの乱をめぐって(1) 第18回 クナシリメナシの乱をめぐって(2) 第19回 クナシリメナシの乱をめぐって(3) 第20回 クナシリメナシの乱をめぐって(4) 第21回 クナシリメナシの乱をめぐって(5) 第22回 まとめに關して(1) 第23回 まとめに關して(2) 第24回 まとめに關して(3) 第25回 まとめに關して(4) 第26回 まとめに關して(5) 第27回 その他、細部をめぐる意見交換(1) 第28回 その他、細部をめぐる意見交換(2) 第29回 その他、細部をめぐる意見交換(3) 第30回 最終意見交換</p>		
<p>●準備学習の内容 論文作成を中心に、疑問点や論点をまとめる。</p>		
<p>●テキスト 依拠の一次史料群。</p>		
<p>●参考書 なし。</p>		
<p>●学生に対する評価 意見交換を中心に総合的に評価する。</p>		

■授業科目名 比較政治学特殊研究Ⅰ	■単位 4	■担当教員名 横山 純一
<p>●授業の到達目標及びテーマ テーマは高齢者福祉、介護保険制度、地域包括ケアシステムについてである。受講生がこれらについての理解を深めることが到達目標であるが、同時に高齢者福祉や介護についての財源問題についても受講生が理解を深めるように講義したい。</p>		
<p>●授業の概要 高齢者福祉、介護保険制度、地域包括ケアに関する文献を熟読する。毎回、受講生が文献についてのレポート報告する。時には、講義形式も取り入れながら授業するし、自治体の介護保険担当者に介護保険の現状と課題について講義してもらう機会もつくりたい。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 国財政・地方財政に関する文献熟読(1)国と地方の財政関係 第3回 国財政・地方財政に関する文献熟読(2)国税と国債 第4回 国財政・地方財政に関する文献熟読(3)地方交付税と国庫支出金 第5回 国財政と地方財政に関する文献熟読(4)福祉関係国庫支出金 第6回 国財政と地方財政に関する文献熟読(5)国の経費支出 第7回 国財政と地方財政に感ずる文献熟読(6)地方財政 第8回 国財政と地方財政に関する文献熟読(7)介護保険財政 第9回 高齢者福祉に関する文献の熟読(1)高齢化の現状と高齢化の国際比較 第10回 高齢者福祉に関する文献の熟読(2)高齢者の置かれている状況 第11回 高齢者福祉に関する文献の熟読(3)高齢者福祉の歴史 第12回 高齢者福祉に関する文献の熟読(4)高齢者医療と高齢者福祉 第13回 介護保険に関する文献熟読(1)介護保険制度成立の議論 第14回 介護保険制度に関する文献の熟読(2)第1期介護保険 第15回 介護保険制度に関する文献の熟読(3)第2期介護保険 第16回 介護保険制度に関する文献の熟読(4)第3期介護保険 第17回 介護保険制度に関する文献の熟読(5)第4期介護保険 第18回 介護保険制度に関する文献の熟読(6)第5期介護保険 第19回 介護保険制度に関する文献の熟読(7)第6期介護保険 第20回 介護保険制度に関する文献の熟読(8)介護保険料の高額化と地域格差 第21回 介護保険制度に関する文献の熟読(9)利用者負担問題 第22回 介護保険制度に関する文献の熟読(10)要介護認定 第23回 介護保険制度に関する文献の熟読(11)補足給付 第24回 介護保険制度に関する文献の熟読(12)総合事業 第25回 介護保険制度に関する文献の熟読(13)自治体担当者の説明 第26回 地域包括ケアに関する文献の熟読(1)地域包括ケアの定義、背景など 第27回 地域包括ケアに関する文献の熟読(2)地域包括支援センターの実態 第28回 地域包括ケアに関する文献の熟読(3)地域包括ケアと在宅医療 第29回 地域包括ケアに関する文献の熟読(4)地域包括ケアと訪問看護 第30回 地域包括ケアに関する文献の熟読(5)地域包括ケアと多職種連携</p>		
<p>●準備学習の内容 授業前には指定する文献を熟読しておくこと。リポーターはレジュメを作ること。</p>		
<p>●テキスト 受講生と相談して決める。</p>		
<p>●参考書 なし。</p>		
<p>●学生に対する評価 レポート報告50%、出席点50%で評価する。</p>		

■授業科目名 比較政治学特殊研究Ⅲ	■単位 4	■担当教員名 横山 純一
<p>●授業の到達目標及びテーマ</p> <p>テーマは日本、フィンランド、スウェーデンの国・地方財政と高齢者福祉の比較研究である。受講生がこれらについての理解を深めることが到達目標である。</p>		
<p>●授業の概要</p> <p>日本、フィンランド、スウェーデンの国・地方財政、高齢者福祉に関する文献を熟読する。毎回、受講生が文献についてのレポート報告をする。時には講義形式を取り入れながら授業する。</p>		
<p>●授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 日本の国財政(1)国と地方の財政関係</p> <p>第3回 日本の国財政(2)国税と国債</p> <p>第4回 日本の国財政(3)国庫支出金と地方交付税</p> <p>第5回 日本の国財政(4)国の経費支出</p> <p>第6回 日本の地方財政(1)地方の経費支出</p> <p>第7回 日本の地方財政(2)地方税、地方交付税、国庫支出金、地方債</p> <p>第8回 日本の介護保険財政(1)介護保険財政の全体像</p> <p>第9回 日本の介護保険財政(2)介護保険料の仕組み</p> <p>第10回 日本の介護保険財政(3)要介護認定</p> <p>第11回 フィンランドの国財政に関する文献の熟読(1)国と地方の財政関係</p> <p>第12回 フィンランドの国財政に関する文献の熟読(2)所得税</p> <p>第13回 フィンランドの国財政に関する文献の熟読(3)付加価値税</p> <p>第14回 フィンランドの国財政に関する文献の熟読(4)包括補助金</p> <p>第15回 フィンランドの国財政に関する文献の熟読(5)一般補助金</p> <p>第16回 フィンランドの国財政に関する文献の熟読(6) 2010年度から2017年度までの一般補助金のしくみの変化</p> <p>第17回 フィンランドの地方財政に関する文献の熟読(7) 福祉国家と使途限定国庫支出金の自治体に果たした役割</p> <p>第18回 フィンランドの地方財政に関する文献の熟読(8)包括補助金と地方自治体</p> <p>第19回 フィンランドの地方財政に関する文献の熟読(9)一般補助金と地方自治体</p> <p>第20回 フィンランドの高齢者福祉政策の変化(1)1980年代後半に福祉国家</p> <p>第21回 フィンランドの高齢者福祉政策の変化(2)1990年代に社会保障支出の削減</p> <p>第22回 フィンランドの高齢者福祉政策の変化(3)1990年代半ば以降福祉民営化が進む</p> <p>第23回 フィンランドの高齢者福祉政策の変化(4)2005年ころから高齢者福祉の供給主として大企業が台頭</p> <p>第24回 スウェーデンの国・地方財政の文献の熟読(1)国と地方の財政関係</p> <p>第25回 スウェーデンの国・地方財政の文献の熟読(2)所得税、法人税、国経費支出</p> <p>第26回 スウェーデンの国・地方財政の文献の熟読(3)地方財政の現状</p> <p>第27回 スウェーデンの国・地方財政に関する文献の熟読(4)国民負担率の低下</p> <p>第28回 スウェーデンの高齢者福祉政策の変化(1)高齢者福祉の財政</p> <p>第29回 スウェーデンの高齢者福祉政策の変化(2)福祉民営化の進行</p> <p>第30回 日本、フィンランド、スウェーデンのまとめ</p>		
<p>●準備学習の内容</p> <p>授業前には指定された文献を熟読しておくこと。リポーターの時はレジュメを作成すること。</p>		
<p>●テキスト</p> <p>受講生と相談して決める。</p>		
<p>●参考書</p> <p>なし。</p>		
<p>●学生に対する評価</p> <p>レポート報告 50%、出席点 50%で評価する。</p>		